

## 電力土木技術協会 会長あいさつ

大石 富彦



本年5月20日に開催されました一般社団法人電力土木技術協会の理事会において服部前会長の後任として代表理事に選任され、第13代電力土木技術協会の会長を務めさせていただくことになりました。

まず初めに、服部前会長の労に対し、心より感謝と敬意を表します。

私事で恐縮ですが、当協会との関りは、関西電力東京支社時代に編集幹事、土木部長時代に表彰委員、執行役員時代に企画担当理事、副会長を務めさせて頂いた事もありご推挙頂いたものと理解しております。

さて、日本のエネルギーを取り巻く状況は変革期を迎えており、電気事業全般では2016年の電力小売りの完全自由化をはじめとして、本年4月には発送電分離がなされ、電力システム改革も最終局面にあり、電力土木技術者の担う使命も大きく変化し、多様化しているように感じております。

協会の現状ですが、電力各社の理事様、企画委員の皆さんの努力のお陰で会員は微増しております。また、経済産業省、NEF様からの業務委託を実施するなど、収支の改善に努めており、収支均衡状態ですが、何とか予算範囲内で推移しています。

今後とも、会員の皆様にとって、電力土木技術の研鑽の場として、有効に機能できるよう努めて参りたいと思っております。

電力自由化前の時代は、電力供給や電源開発エリアも区分されていたため、技術の共有に抵抗はなかったのですが、現在の競争時代において、技術やデータをオープンにして良いか戸惑うこともあるかと思えます。しかし、電力土木技術協会を是非“競争と共有”の場に頂き、技術の面ではお互い切磋琢磨するとともに、技術共有をしていただいて、世界の電力土木技術を日本の電力土木技術がけん引して行くのが、明るい未来でなはいでしょうか。

どうしても『発電水力（もうこの名前は過去のものとなりました）』の時代より、水力の開発・保守が当協会の活動の中心になります。昨今、ダム治水利用やさらなる増電に向けた運用の在り方、ITやAIを用いた革新的な保守の方法など技術革新が目覚ましいところで、海外水力開発も盛んになってきました。国内の水力技術の海外移転だけでなく、海外の技術輸入、さらにはその融合による世界最先端の水力開発、水力保守・運用などにも当協会を活用いただければと考えています。今後も水力が主体になりますが、昨年、服部会長時代に風力の検討会を立ち上げたように、再生可能エネルギー、特に高度な土木技術を要する

洋上風力など会員の皆様と喧々諤々の議論ができればと期待しています。

また、2010年の東日本大震災以降、原子力土木の分野は、再稼働を目指し、安全審査に昼夜分かたず努力する日々が各社とも続いています。PWR は概ね審査が終了しつつあり、BWR も着実な進捗が期待されつつあります。PWR の関係各社の皆さんには、是非現状の技術課題をまとめ、次の審査に向かうべく、技術の取りまとめをおこなうなどに当協会を利用して頂ければと考えています。

服部前会長時代にはシニア会員制度を設け、60歳以降の方々の当協会への参画がし易くなりました。今後は、若手の会員が参加しやすい協会を考えて行きたいと思います。会員の皆様の協力のもと、当協会がさらに発展するよう微力ながら努力していきたいと考えております。どうぞよろしくお願ひ致します。